

いつやるか

2011年3月11日。

想定外の災害の連続に、遠く離れたこの地でも、

誰もが恐怖を感じ、危機意識を持った。

四国沖にも、いつ地震を引き起こしても

おかしくないと言われる南海トラフがある。

「明日は我が身」

あなたは、あのとき、

南海トラフ巨大地震に備えておこうと思ったはず。

2013年6月。

あの日から2年余りがたち、

松前町は最大で、震度6強の地震、4.2メートルの津波に

襲われることが想定されている。

あなたは、今、

南海トラフ巨大地震が起こっても覚悟はできているか―。

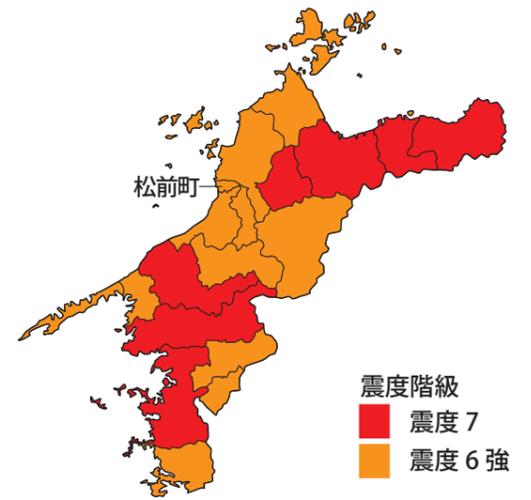
今、危機を



感じる

次第に明らかになる南海トラフ巨大地震の被害想定。
「私は、無事に避難できるのか」
今、一人一人がこの危機を感じる必要がある。

愛媛県における震度分布図



松前町における「南海トラフ巨大地震」震度・津波高

(H24.8.29 国の南海トラフの巨大地震モデル検討会 第2次報告)

最大震度	※最大津波高 (メートル)	津波の最短 到達時間(分) / 津波高1メートル
6強	4.2	133

※最大津波高は、東京湾標準海面(海拔0メートル)が基準になります。

愛媛県における避難者数・ライフラインの最大被害想定

(H25.3.18 国の南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ 第2次報告)

	避難者数	上水道 断水率	下水道 機能支障率	停電率	固定電話 不通回線率	ガス 供給停止率
被災直後	—	89%	90%	89%	89%	93%
被災1日後	※40万人	94%	83%	81%	82%	88%
被災1週間後	54万人	69%	11%	10%	18%	63%
被災1カ月後	53万人	19%	3%	9%	6%	わずか

※四捨五入の関係で、本文中と合計が一致しない。

④消火訓練。子どもも含めて誰でも使えるように訓練する ⑤リヤカーを使った救出訓練。災害時に、自力避難できない人を助ける ⑥応急処置訓練。骨折時に医薬品が無ければ、雑誌や木などを代用して、腕を固定する



田中 安男さん
Tanaka Yasuo



鈴東正裕さん 春清くん
友花さん 更紗ちゃん
Suzuhigasi Masahiro Syunsei
Yuka Sarasa

無駄なくスムーズに終了したように見える自主防災訓練。しかし、大溝区長で防災士の田中安男さんは、住民一人一人の意識の低さを心配します。「二人一人の防災意識がまだまだ

一人一人の危機意識の欠如
4月14日(日)9時、大溝地区の住民が続々と避難してきました。年1回の大溝自主防災訓練です。ちょうど前日に起きた淡路島地震の影響もあり、危機意識を高めているたくさんの方々が、小富士保育所に集まりました。訓練では、まず避難者と名簿を照合。無事を確認した後は、消火訓練、打撲や骨折時の応急処置訓練などに住民は積極的に参加しました。さらに今回が初めてとなる、リヤカーを使った園児や和楽園入所者の救出訓練と炊き出し訓練も行われました。

「東日本大震災の被災地は、私たちより、訓練をしていたはずなのに、あれだけ被災者が出た」と正裕さんが心配すれば、「防災訓練をしたときは、『ためになっ』と思うけど、すぐに忘れてしまふ。意識して続けることが大事だね」と友花さんも、子どもたちを見つめながら話します。
南海トラフ巨大地震では、行政、消防や自主防災組織も機能しないかもしれません。「私は無事に避難できるのか」今、一人一人が、この危機を感じる必要があります。では「何をすれば」無事に避難できるのでしょうか。

「訓練に来て」と言われたから、なんとなく来ているという人が多い。訓練には含まれていないが、避難所への移動中に『この道路は寸断されるかもしれない』『この橋は壊れるかもしれない』と危険箇所の確認をしてほしい。自主的に、非常持ち出し品も持ってきてほしい。大溝地区では、水と乾パンを100食分用意していますが、じゅうぶんではありません。地域や行政に頼る前に、まず自分で身を守るということが大事です」
毎回訓練に参加している鈴東正裕さん一家も、同じ考えです。

南海トラフ巨大地震が起これば
建物倒壊により74000人、津波により44000人、火災により7000人が死亡する。負傷者数は約4万8000人。医師や看護師、医療機関の被災によりけがの手当てが遅れる。
約54万人の避難者。ライフラインの被災により、喉が乾いても水が飲めない、おなかが空いても食料が足りない、真っ暗でも電気がつかず、冷暖房は使えない、温かいものが食べたくてもガスが使えない、大切な人と連絡が取りたくても電話が通じない。
これが、南海トラフ巨大地震発生後の県内の状態です。
国の南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループは、昨年8月の建物被害と人的な被害想定を推計した第1次報告に続き、3月18日、施設の被害などを推計した第2次報告を公表しました。前回に引き続き、地震動は、最新の科学的知見に基づく最大クラスの地震として、マグニチュード(M)9クラスを設定。さらに、▽震源域▽発生時刻▽風速▽避難行動などでそれぞれ条件を変えて算出しました。

この最大被害想定は、極めて発生頻度が低い最大クラスの地震が発生した場合で、「何の対策もしなかった場合」のもので、こうした被害想定を受けて、もちろん各地区の自主防災組織は、さらに訓練に力を入れています。

このうち最大被害想定によると、県のライフライン施設の被害は、被災直後で上水道の断水が89%、下水道の支障が90%、停電率が89%、固定電話の不通回線率が89%、ガス供給停止率が93%と、県内のライフラインの約90%がストップ。これらの完全な復旧には1カ月以上かかります。避難者は被災1日後で、避難所に約25万人、避難所外に約16万人。さらに被災1週間後には、避難所が約28万人、避難所外が約26万人に膨れ上がります。
県別の食料などの不足数は出ていませんが、被災地全体では被災後の3日間で、食料約3200万食、飲料水約4800万リットル、毛布約520万枚が不足。さらに、4〜7日目合計で状況は悪化し、食料約6400万食、飲料水約9900万リットルの不足が想定されています。

県内のライフライン約90%が被災
このうち最大被害想定によると、県のライフライン施設の被害は、被災直後で上水道の断水が89%、下水道の支障が90%、停電率が89%、固定電話の不通回線率が89%、ガス供給停止率が93%と、県内のライフラインの約90%がストップ。これらの完全な復旧には1カ月以上かかります。避難者は被災1日後で、避難所に約25万人、避難所外に約16万人。さらに被災1週間後には、避難所が約28万人、避難所外が約26万人に膨れ上がります。
県別の食料などの不足数は出ていませんが、被災地全体では被災後の3日間で、食料約3200万食、飲料水約4800万リットル、毛布約520万枚が不足。さらに、4〜7日目合計で状況は悪化し、食料約6400万食、飲料水約9900万リットルの不足が想定されています。



2 避難場所と避難経路の確認

松前町にある9つの指定避難所の中から、近くの避難場所を確認します。また震度6強では、幅員5.5m未満の道路の半数以上が通行困難になるため、複数の避難経路を考えます。「この道は狭いから、建物が倒れていて通れないだろう。その場合は、こっちの広い道を使って移動しよう。避難場所は、津波も考えてより標高の高い、伊予高校にまずは避難しよう」

今、準備すべきもののこと

3 連絡方法の確認

家族は、被災時に一緒とは限りません。固定電話・携帯電話は、非常にかかりにくくなります。そのときどうやって連絡するかを確認します。「被災時に電話は通じないだろう。連絡よりも、まずは避難しよう。離れ離れでも、お互いに避難していることを信じて、避難場所で落ち会おう」



つっぱり棒



L型金具



5 実際に避難する

実際に避難してみると、避難のイメージが具体的になり、注意すべき点が見えてきます。「非常持ち出し品は、一度に持てるのはこのくらい。あとは建物が倒壊しても取り出せるよう外に置いておこう。この道はやっぱ狭い。こっちの道を通ろう。避難所までは10分ほどかかるようだ。早めに避難しよう」

4 家具の倒壊防止

阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋や家具の下敷きによる圧死が、死因の8割以上でした。「震度6強では、固定していない家具の多くは倒れるから、寝室の家具は移動した。さらにホームセンターで、つっぱり棒やL型金具などを買って、家具を固定する必要があるな」



南海トラフ巨大地震が発生すれば、県内の約19万2千棟の建物が全壊し、ライフライン90%がストップしてまづという。想定外で慌てないためにも、生き抜くためにも、

今、準備する

1 非常持ち出し品の確認

飲料水	1人1日3リットル×3日分
非常食	缶詰や乾パンなど、保存性が高く、火を通さず食べられるもの
医薬品	常備薬、包帯やガーゼなど、軽いけがや病気に対応できるもの
応急生活用品	ラジオ、懐中電灯、携帯電話、予備電池など
衣類	防寒具、毛布、下着類、軍手、雨具など
貴重品	現金、通帳、印鑑、身分証明など

防災生活は日常生活

「水、食料、衣類、貴重品に必需品。生活用品。あと救急箱はある？」宗意原に住む松田善彦さん、かよ子さん夫婦。宗意原自主防災訓練を3日後に控えたこの日、大きなレジャーシートに所狭しと非常持ち出し品を並べていきます。

「南海トラフ巨大地震が発生した場合、たぐさんの食料や飲料水が不足すると見込まれています。だから、▽1人1日3リットル×3日分の水▽火を通さずすぐ食べられる缶詰やレトルト食品などの食料▽地震による軽いけがや病気に対応できる医薬品▽ひとまとめにした貴重品▽これらがすっぽり入る大きさのリュックなどを用意しておいて、すぐに持ち出せるように玄関の近くに置いてあります」と話す善彦さん。

一方のかよ子さんも「主人と一緒にホームセンターなどに行つて、非常持ち出し品を買って協力します」と自主防災について協力的です。「食料品は賞味期限が近づいたら、食べて買い替えますが、意外と美味しいですよ」と、日常生活の一部になっている防災生活について笑顔で話します。

意識したときに「すぐ」準備する

善彦さんが非常持ち出し品を集め始めたきっかけは、松前町の防災士になったことでした。「それまでも、京都に住んでいたときに、阪神・淡路大震災で被災して、非常持ち出し品の準備などの必要性を感じていました。でも、『いつかやらなきゃな』と思うだけで…。防災士になったとき、自助（自分で自分を守る）の重要性を学んで意識が一気に高まり、少しずつ水や食料から集め始めました。最初は少なかった非常持ち出し品は種類・量ともに充実。今では、自助の模範として、自主防災訓練で展示されるように。」

「非常持ち出し品を集めるのに、特別なことはありません。ほかにも、避難経路の確認や連絡方法の確認など、自主防災は誰でもできることです。ただ、意識したときに『すぐ』やらなといけません。先延ばしになると結局やらなくなりますから」地震はいつ起きるか分からない。だからこそ、「訓練に出て、この展示を見て、きっかけは何でもいいから、防災意識が高まった『そのときに』、始めてほしい」。善彦さんは私たちにそう訴えます。

防災のためにできることは他にもある。
もちろん町も協力します。だから

今、やる

震災時に農地を提供する 防災協力農地



防災協力農地は、地震など大規模な災害が発生したとき、避難場所や仮設住宅建設用地などに使用する農地です。町民の安全を確保するため登録に協力をお願いします。

- 用途 ①緊急避難場所 ②仮設住宅建設用地や復旧用資材置き場（長期間使用する場合は、別途協議）
- 登録期間 3年 ※初回は登録日から2年を経過した最初の3月31日まで ※期間満了までに「継続しない意思表示」がなければ、自動更新
- 使用期間 2年以内 ※登録者の同意を得て延長あり
- 農作物補償、土地使用料 使用した場合は支給します。
- 原状回復 使用した場合は、原状回復して、返却します。
- 標識 登録農地には、案内標識を設置。ゴミの投げ捨て防止の啓発も行います。
- 産業課農地係

☎ 985-4131

木造住宅の補強をする 木造住宅耐震工事補助



木造住宅の耐震化に向けて、建物全体か1部屋以上を補強する工事の費用を補助します。また、耐震工事をするために必要な耐震診断（住宅の安全性を診断）や耐震設計（設計図書を作成）を無料で行います。

- 対象住宅 以下の全てに該当すること
- ①町内で、昭和56年5月31日以前に着工された一戸建ての木造住宅
- ②併用住宅のときは、住宅以外の用途の床面積が過半でないもの
- ③二階建て以下で、延べ面積が500㎡以下のもの
- ※枠組壁工法、丸太組工法、特別な認定を得た工法のもの是对象外
- 対象者 住宅の所有者
- 受け付け戸数 耐震診断—20戸
耐震設計—8戸
耐震工事—8戸
- ※応募多数の場合、受け付け先着順

建物の倒壊を防止する 老朽放置建物除却工事補助



建物の倒壊などによる災害防止のため、指定する区域内の老朽放置建物を除却する工事について補助します。

- 対象建物 以下の全てに該当すること
- ①指定区域内で、昭和56年5月31日以前に着工された一戸建ての木造住宅と付属建物
- ②敷地内に所有者や管理者、占有者がおらず現に放置されている建物
- 対象者 建物に関して権限を持って、除却を行える人
- 受け付け戸数 3戸 ※応募多数の場合、受け付け先着順

木造住宅耐震工事補助との共通事項

- 受付期間 6月10日（月）～11月29日（金）
- その他 希望者は事前に、まちづくり課窓口で相談してください。
- まちづくり課計画建築係
- ☎ 985-4124

「幸いにも」はついで続くか

今月の特集は「南海トラフ巨大地震に備えよう」というものでした。ここまで特集を読んできたという人は、現時点では「幸いにも」、南海トラフ巨大地震は起こっていないという事です。

1995年1月17日、阪神・淡路大震災。私たちはこの災害で▽消防車も、救急車も、救助隊も大災害では到着が遅れること▽重要なのは自分の身は自分で守ること、を学びました。

2011年3月11日、東日本大震災。私たちはこの災害で、▽想定外は起こりうることを▽千年に一度の巨大地震は対岸の火事ではないこと、を学びました。

2013年6月。私たちは、過去の災害を教訓に、やらなければいけないことが分かっています。千年に一度は明日かも知れない。もしかしたら今日かも知れない、ということを頭では理解しています。後は、それを行動に移すだけです。「幸いにも」はいつまで続くか分かりません。

じゃあ、いつやるか—

南海トラフ巨大地震が発生すれば、県内で4万8千人もの負傷者が発生する。もし愛する家族がけがをし、意識を失ったら—。被災時は、救急車を呼ぼうにも電話が通じない。そのとき、「何もできなかった人」にならないために、



今、学習する



1心肺蘇生法。老若男女、誰でもできるのが理想 2官公庁の施設などに置かれているAED。使い方に加えて、どこにあるか知っておくと便利 3直接圧迫止血法を教える救急救命士の佐々木敦さん。手本を示しながら、分かりやすく説明する



●松前消防署救急担当 ☎ 984-3404

もっと早く学んでおけば…

「1、2、3、4、5、6、7、8、9、10…」。迫田勝江さんは、力強く一定のリズムを保ちながら、身体に覚えこませるように、心肺蘇生法を続けます。

上高柳自主防災会が毎年、自主的な参加者を募り、松前消防署の指導のもと行っているこの普通救命講習。心肺蘇生法、AEDの使用や大出血時の止血法などを学ぶ、3時間みっちりのコースですが、今回も35人の参加者が集まりました。

初めて講習に参加したという迫田さんは、救命講習の大切さを知り、もっと早く受けておけばよかったと話します。

「正月に主人が亡くなりました。急に息ができなくなって、救急車を呼んだけど間に合わず…。そのとき、私は何もできなかった。こういう講習を受けていれば、少しは対処できたのかなと思います」

いざというときに役に立つ、救命講習。ただ、「いざ」が「いつ」かは誰にも分かりません。この講習の企画者である防災士の赤坂宏作さんは、だからこそ何回でもこういった学習をすべきだと話します。

「東日本大震災を機に、いざというときのために学ぼうという人が増え、参加者も増えています。ただし災害もそうですが、災害から身を守る救命方法も、『意識したとき・学んだとき』は覚えているが、みんな時間がたつと忘れてしまう。1回だけ参加して終わりではなくて、繰り返し参加して、学習してほしいです」

一人一人できることを増やしてほしい

こういった救命講習を指導する松前消防署救急救命士の佐々木敦さんも、一人一人の救命能力の向上を訴えます。「私たちは、企業、団体や友人の集まりなど10人前

後から要望があれば、日程を調整し、指定の場所に向いて講習を行います。また、今回行った普通救命講習以外にも、『災害時は負傷者が多数発生するから、応急手当や負傷者の搬送を中心に学びたい』など、要望に応じて講習することもできます。ぜひ一人一人できることを増やしてほしいです」

災害時は、救急車の到着が遅れることが想定されます。また、医療品も手元にないかもしれません。そのときに慌てず、命を救えるか—。「もっと早く学んでおけばよかった」とならないようにしましょう。



迫田 勝江さん Hazata Katsue
赤坂 宏作さん Akasaka Kousaku